主催者挨拶

創価大学平和問題研究所 所長　玉　井　秀　樹

この度は「大沼保昭文庫」開設記念シンポジウムに御参加いただき、たいへんにありがとうございます。また、お忙しいなか、パネリストとして御参加いただきました東洋哲学研究所の蔦木文湖さん、高崎経済大学の三牧聖子さん、桜美林大学の大中真さん、そして、大正大学の大沼みずほさんにあらためて感謝申し上げます。

また、本日は大沼保昭先生の奥様も御参加いただいております。たいへんにありがとうございます。

当研究所と大沼保昭先生の御縁については、当研究所紀要に載せた大沼先生の追悼文に記したのですが、ここで再び紹介させていただきたいと思います。東京大学法学部教授として教鞭をとられた後、2009年から明治大学特任教授に就かれていた大沼先生が、創価大学を訪問される縁となったのは、草創期の本学経済学部で教鞭をとられた大熊信行教授でした。大沼先生は、大熊教授の学風と人格に惹かれ、同郷（山形県）であったこともあり、若き日に大熊教授に私淑されていたとうかがいました。大熊教授が逝去され、その葬儀で創価大学での教育に情熱を傾けられていた大熊教授の言行を知って以来、大沼先生も本学に強い関心を持っておられたとのことでした。

そして、2014年12月、東洋哲学研究所が主催する研究会で「文明史の観点から見た21世紀の世界」との講演をされるために八王子にお出でになり、本学にも初めて訪問されました。

この時、大熊教授の事跡を知る大学首脳とも懇談の機会をもたれて、教授が創価大学建設にかけられた思い、創立者・池田大作先生との関係を聞かれ、さらに本学への御理解を深めていただきました。そして、大沼先生からは、「大

熊先生が情熱を傾けた創価大学に私としてもできる限りの協力をしたい」とたいへんにありがたいお言葉をいただき、翌2015年から早速に平和問題研究所が開催する平和講座にて講演をしていただきました。

さらに2016年からは、創価大学平和問題研究所・客員教授の委嘱をお受けくださり、平和講座で学生に親しく講義され、さらに当研究所設立40周年記念シンポジウム開催にあたって様々に御助言をいただくなど、本学の研究・教育の発展に大きく貢献してくださったのです。

大沼先生の御協力をさらにいただき、あらたな研究活動の進展をと考えておりましたところ、思いがけなく先生が病にて体調を崩されていることを知らされました。私たちには推し量ることのできないたいへんな闘病生活があったことと思いますが、先生の旺盛な研究活動、執筆活動は衰えることはありませんでした。遠方にもかかわらず、平和講座のために本学までお越しくださいましたことを忘れることはできません。

また、「誰にでもわかる〝生きた国際法〟の新書を最後に書きたい」とおっしゃられて、亡くなる前日まで筆を取られていたという遺作『国際法』は、人権の擁護と人類の平和の達成のために尽くされてきた先生の熱誠の結晶であると思います。

大沼先生は最後まで知的創造を続けながら、2018年10月16日、その尊き生涯を終えられましたが、当研究所に遺された先生愛用の書籍や文献資料について、御遺族の御理解を得てこれら貴重な文献を「大沼保昭文庫」として設置させていただくこととなりました。「大沼保昭文庫」にふれるたびに、大沼先生の御遺徳と御功績を偲び、後進の我々も真の平和追求の学徒として進みゆくことを確認していきたいと考えております。

そして、文庫開設から一年を経て、いまだにコロナ禍の困難にある世界に生きる私たちにとって、今だからこそ、大沼先生の遺された偉大な業績を学び、我々がどう生きるべきかを考えることに大きな意義があるとの思いで、先生ゆかりの研究者をお招きし、先生の学業と人格から学んだことを語りあい、その学びをこれからどのように活かしていくべきかを考えるシンポジウムを開催させていただいた次第です。

シンポジウムのテーマについて、我々の大沼体験は「文明史の観点から見た21世紀の世界」を論じられる姿にありまして、大沼先生に学ぶのであれば、人類史的課題、地球規模の課題がふさわしいのではないかと考え、浅薄の誹りは免れませんが、〈「人新世」時代をどう生きるか〉としました。

このようなシンポジウムで大沼先生を語るというのは簡単なことではないとは思いますが、大沼先生を当研究所と結び付けてくださった、本日のモデレーターを務めていただく東洋哲学研究所委嘱研究員の蔦木栄一さんに、この任に応え得る相応しいパネリストを紹介していただきました。そのおかげで本日のシンポジウムが成立したものであり、あらためて感謝申し上げます。たいへんにありがとうございました。

人類史、地球規模のスケールの大沼先生の学識・見識を学ぼうと準備をしているさなか、ロシアによるウクライナ侵攻が始まってしまいました。現段階の我々人類には「地の平和」を維持することすらままならないことを痛感させられます。

この軍事侵攻によって犠牲となった方々を悼み、恐怖と苦難の中にある人々が一日も早く平穏を取り戻すことを祈るばかりです。

犠牲者が増え続けるなか、ロシア・プーチン大統領は目的達成まで攻撃をやめないとしているとの報道がありました。ウクライナ最大規模の原子力発電所で戦闘となったという身の毛もよだつような報道もありました。ここまでの事態となっても、プーチン大統領、ウクライナ政府、米国・NATO は自らの正義を言いつのり、停戦合意の兆しすら見えていません。

大沼先生であれば、利己主義の蒙昧と崇高なる精神とを併せ持つ人間の実相を見据えたうえで、紛争の犠牲となり、日常生活を奪われた人々のことを第一義に考えられたものと思います。そのうえで、より多くの人が尊厳をもって生きる自由を享受する世界へ向かうための指針を示されたのではないでしょうか。

本日は、大沼保昭先生であればどのように振舞われたかに思いを致しながら、より良き人類社会、地球社会へ向かうためのアイデアを学んでいくことができればと望んでおります。

以上、本日の御参加に重ねて御礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。